

初めに

2016年度がはじまりました。

3月議会では名古屋市議会で、年収800万円から1455万円にアップするというニュースが流れる影で、全国ほぼ一斉に私たち議員や市長などのボーナスも0.07か月分を上げられてしまいました。

ボーナスアップの根拠として示されたのは、優良企業の正社員や役員報酬の額などを元にした人事院勧告です。

しかし、私たち議員は優良企業や正社員、取締役員だけの代表ではありません。

4割を超えたとされる非正規雇用の収入は、人事院勧告の調査結果とは明らかに違ってきます。

非正規雇用も含めた全体の経済状況に、政治家は責任を持つべきです。

豊川市議会議員(豊川市民オンブズマン) 倉橋英樹



【議員の期末手当アップについて(賛成25 反対4で可決)】

「初めに」に書かせて頂いたように、政治家は非正規雇用を増やしてきた責任を取るべきという想いもありますが、以下のデータからも反対しました。

豊川市議	改正前	改正案	民間取締役	豊川市議
ボーナス月数	4.5 か月	4.57 か月	報酬額	2082 万円
人事院勧告			平均人数	8.61 人
民間ボーナス月数 4.21 か月			総コスト	1 億 7926 万円
				2 億 3700 万円

(取締役の平均人数は東証一部上場企業データから)

豊川市議会議員のボーナス月数は既に民間を上回っており、民間取締役員と比べても報酬こそ少ないものの、人数は3倍以上となっています。

人事院勧告に従うのなら、議員の定数削減をしてから行うべきだと訴えました。

視察旅行費の残金について

豊川市の行政視察では、その費用を概算計算して実費経費以上に支払われています。税金ですので、余ったお金は市財政に戻すべきだと主張してきましたが、今なお改善されていません(詳しくは活動報告 3に記載)。

即時返還したいところですが、公職選挙法により議員の寄付行為は制限されています。そこで視察旅費の残金を皆様にご報告し、失職時に返還できるようにしています。

年度/合計	旅費残金	備考
平成23年~26度分	27,271円	問題追及前は、5千円ほど返還
平成27年度分	6,791円	事務局からの返金791円+夕食雑費として
合計	34,062円	

今後も、市民感覚をもって活動を続けていきます。

オンブズ議員の活動報告

主権者の皆様へ

こうすれば地方は再生する ~ 地方創生の特効薬 ~

若者塾 第4回勉強会のお知らせ

「国が予算をどんなにばらまいても、地方創生など不可能だ。」

これは「国に頼るからバカを見る 反骨の市町村(講談社)」という本に書かれた言葉です。刺激的なタイトルの本ですが、石破茂地方創生大臣もお読みになり、自身のBLOGOS記事の中でこの本を紹介し、こうコメントされていました。

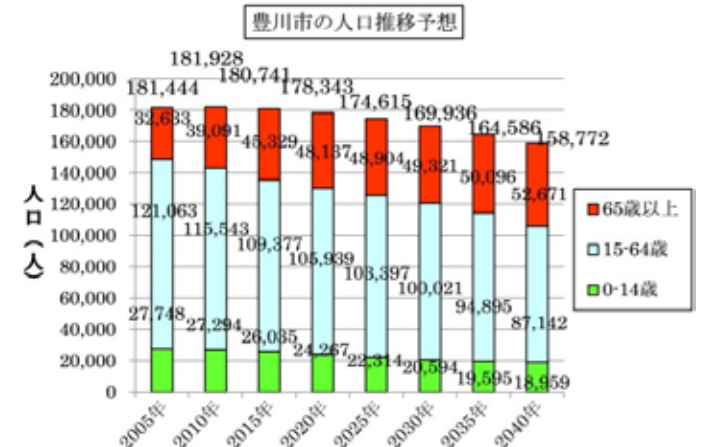
「我々が改めるべき点は何処か、常に考えなくてはなりません。」

政府だけでなく私たち地方の人間も、今まで何が間違っていたのか考えていきたい。

平成20年に始まった日本の少子高齢化・人口減少は、豊川市も例外でなく、地域経済の縮小が危惧されています。

国は、その対策に地方創生を掲げ、地域の活性化に力を入れようとしていますが・・・

これまでも「ふるさと創生事業」や「リゾート開発」、「平成の大合併(合併特例債)」など様々な取り組みが行われ、その多くが効果を見ず失敗をしてきました。



※国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(2013年3月発表)より



(相川俊英氏)

しかし、数少ない成功事例(自治体)もあります。

日本中を回り、その成功例と失敗例を数多く取材してきた相川俊英さんのお話から、真の地方創生をおこすキッカケを頂きたいと思えます。

【日時】 4月23日(土) 14:00~16:30

【場所】 豊川市御津文化会館(御津ハートフルホール) 研修室
豊川市御津町広石日暮146番地

【備考】 参加費500円(資料、会場代) 【参加資格】 どなたでも(年齢不問)

(設営の関係上、参加希望者様は事前にご連絡頂けると助かります。)

ご意見やご質問、情報提供などお待ちしております。

制作及び 文章責任	くらはし ひでき 倉橋 英樹	連絡先(携帯) 090-6577-6895 fpkura@yahoo.co.jp
住所 F B	愛知県豊川市御津町広石広国49-1 https://www.facebook.com/fpkura	

ホームページは「倉橋英樹」で検索! 詳細意見や議会動画を見て頂けます。情報提供も秘密厳守の上、随時受け付けています。また、後援看板の設置場所も募集しております。

3月定例会 / 一般質問

雨水排水対策について

近年、側溝などの排水が上手くできずに起こる「内水氾濫」「都市型水害」というものが、多くの市民に可視化されるようになってきました。特に、今までは無かったような場所でも冠水被害が見られるようになってきており、質問をしました。

(質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
大雨による道路冠水被害について、過去3年間の発生件数は？	平成25年度、2回12件。 平成26年度、なし。 平成27年度、4回25件。
市民から道路冠水の訴えがあった時は、まず側溝の土砂清掃で対応されている。その要望への対応率は？	平成25年度は約25% 実施 平成26年度は約69% 実施 平成27年度は約61% 実施
旧豊川市と旧宝飯郡の雨水計画の違いがあるようだが、その内容は？	旧豊川市、一宮町、音羽町は汚水と雨水両方の下水道整備を同時に行ってきたが、旧小坂井町と御津町は汚水整備を優先して、雨水整備は保留中です。小坂井町は平井ポンプ場や雨水浸透施設の設置などで雨水対策を行い、御津町はこれまで道路側溝等を利用し、雨水処理を行ってきた。 (表1参照)
新たに顕在化してきている冠水被害は、土地開発行為による土地利用の変化が大きく関係していると思われる。そこで、農地面積の推移について伺う。	愛知県農林水産統計年報の耕地面積数値から見ていくと、1975年に4,114ヘクタールあったが、2014年には3,330ヘクタールとなっており、約20%の減少をしています。 (表2参照)

旧1市4町で雨水計画(雨水対策)が違っており、また農地面積の減少によって、道路冠水などが引き起こされている可能性が数字として明らかになりました。

(表1) 旧1市4町の雨水計画・対策状況

	下水道事業	その他の雨水対策
旧豊川市、一宮町、音羽町	汚水と雨水の同時整備	-
旧小坂井町	汚水のみ先行整備	ポンプの汲み上げ、雨水浸透柵の設置など。
旧御津町	汚水のみ先行整備	側溝による排水。

(表2) 愛知県農林水産統計年報による「耕地面積数値」(単位/ヘクタール)

	1975年	1985年	1995年	2005年	2014年	対比
耕地面積	4,114	3730	3456	3485	3330	-19.1%

税金の使い方を考えよう

(左ページ続き)

雨水排水対策について

(質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
道路冠水が頻発し始めている地域で、更なる開発行為も予想されます。その開発行為について、現在の行政の対応はどうしているか？	開発行為の指導要綱を定め、その中で基準を設けている。3,000㎡以上の開発行為では、浸透施設などの設置を要求している。小規模な開発行為も流出抑制の指導はしている(義務ではない)。
雨水排水対策として、現在の対応で十分だと考えているのか。	市域全体の雨水対策としては道路冠水もあり十分でないかもしれないが・・・ 開発区域のみで見れば問題が起きた報告は無く、有効な対応であると考えている。
ある地区の道路冠水の現場では、水田に大量の水が流れ落ちて被害を抑制していた。しかし、そこもつい最近住宅用地に変わっていた。今後、更に道路冠水の被害が広がることも予想できます。この想定しうる問題に、市としての対策を問う。	新たに雨水管の整備を行うには、工事費や地下埋設物の移転補償など多くの課題があり難しい。 一部の地区で行ってきた雨水貯留タンクや雨水浸透マスの設置補助事業の活用を進め、雨水浸透施設(雨水浸透トレンチ)の設置ができないかなどの調査、研究も行っていきたい。
市長の政策ビジョンに「市外からの指定地区への転入者への補助」というものがあつた。水害に限らず、危険区域にいる市内住民などが安全な場所へ転居する場合などに、市民の居住地誘導として一緒に考えても良いと思うがどうか。	人口減少や高齢化の進展から、コンパクトシティ推進の観点で緩やかな居住誘導の検討は必要と考えます。 ただ災害の危険性のある区域では、それぞれの法によって、規制や防災工事などが行われている。

大規模な道路冠水被害に対して、雨水タンクの設置補助をしても一戸だけの設置では効果も薄いでしょう。しかし、地域が一体となった取り組みとすれば幾分効果も上がりそうです。大規模な政策的後押しも必要ではないかと提言をしました。

また、雨水対策において市当局がいつも大きな課題として挙げるものに、「雨水対策の最終的な流末となる河川改修が進んでいない」というものがあります。つまり、市域に降った雨水を河川に排水する余裕がないということです。

これは、**昨年の鬼怒川の堤防決壊を考えると非常に大きな問題です。**鬼怒川も上流のダム建設に多くの税金が投入された一方で、堤防の整備が後回しにされたことで、被害を拡大させたと治水の専門家が訴えているのを見ました。**国も県も財源には限りがあり、「ダムも河川改修も」とは出来なかったのでしょうか。**

私たちの地域も、宇連ダムの3倍も大きい設楽ダムの建設計画がありますが、地盤の悪さなど様々な問題が指摘されています。

いまは足元の安心安全(河川改修)こそ、最優先にするべき時だと思えます。